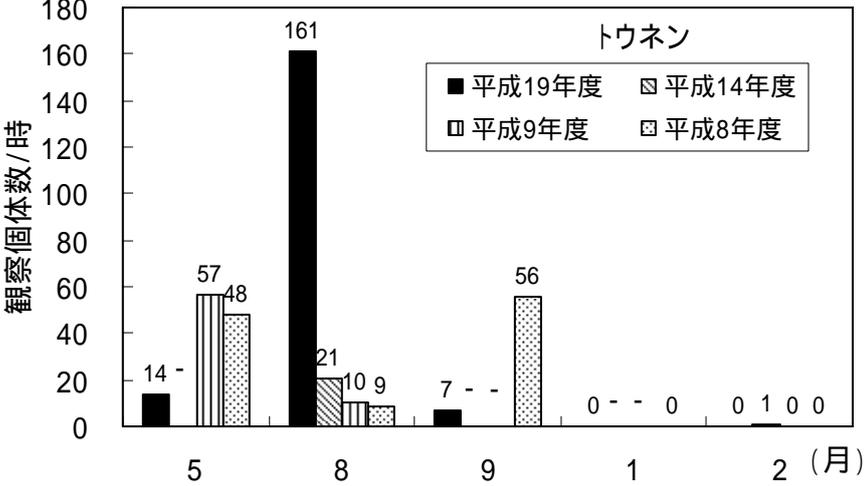


| トウネン | |
|--|--|
| 平成 19 年 8 月 28 日 ふなばし三番瀬海浜公園  | |
| 一般生態 | 旅鳥として日本各地に渡来し、砂浜の波打ち際や水溜まり、干潟砂泥地などでゴカイ類、甲殻類、昆虫類などを採餌する。 |
| 確認時期 | 本種は平成 8～9 年度と同様、5 月、8 月、9 月に確認された。8 月は平成 8～9 年度、平成 14 年度より多く、5、9 月は平成 8～9 年度より少ない傾向にあった。  |
| 分布状況 | 夏季の採餌場所を図 3-16 に示す。 トウネンの採餌は、全ての観察時間帯で確認され、下げ潮時と上げ潮時に観察個体数が多かった。主な採餌場所は、ふなばし三番瀬海浜公園周辺及び養貝場であり、平成 8～9 年度と大きな変化はなかった。 夏季の休息場所を図 3-17 に示す。 主な休息場所は船橋の防泥柵上であった。平成 8～9 年度にはふなばし三番瀬海浜公園の汀線付近での休息が多く、本年度とはやや場所が異なっていた。 |



平成19年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。

○ 2

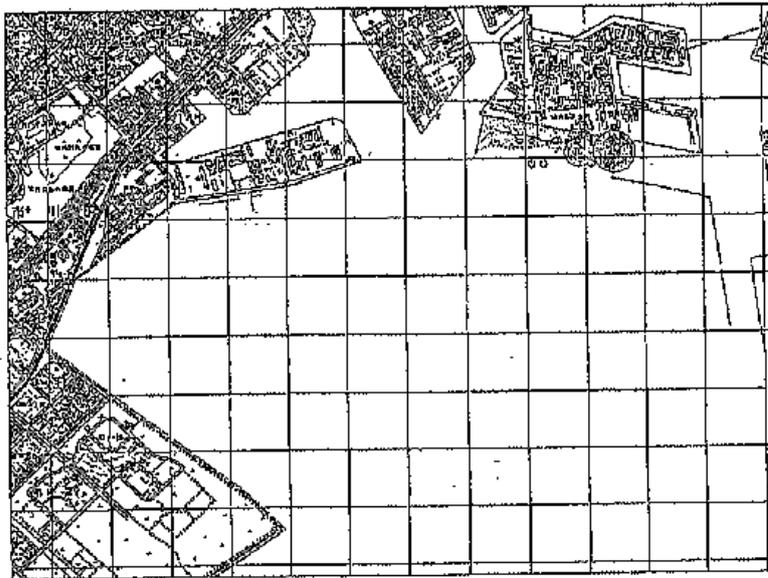
○ 1

○ 0.5

基準値1以上の場合 $x=10^{d-1}$
上記以外の場合 $x=d$

x: 密度(個体数/100m²)
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合
d=0.1で表示



平成8～9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。

○ 2

○ 1

○ 0.5

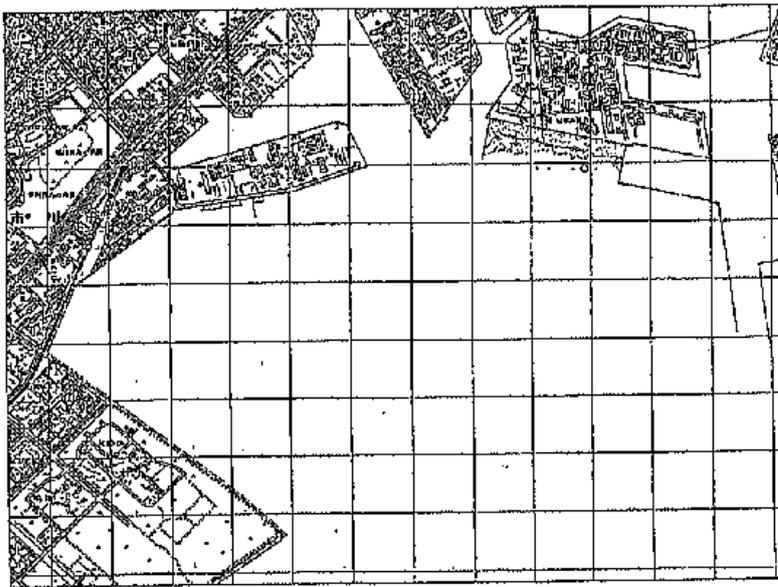
基準値1以上の場合 $x = 10^{d-1}$
上記以外の場合 $x = d$

x: 密度 [個体数/100m²・対象期間]
d: 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m²にまとめて表示。
なお、地図上の格子は50cm間隔で表示。



図 3-16 夏季におけるタウンンの密度分布(採餌場所)



格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。
 なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-17 夏季におけるトウネンの密度分布(休息場所)

ハマシギ



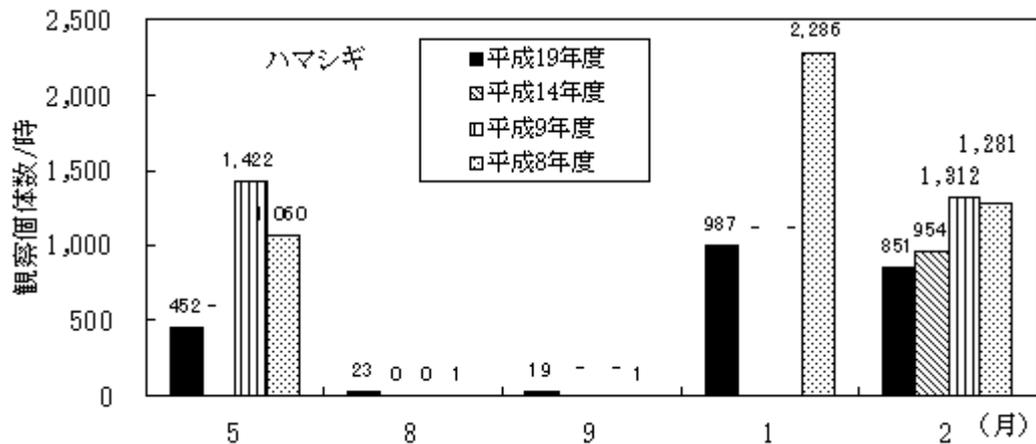
平成 20 年 1 月 22 日
船橋防泥柵で休息



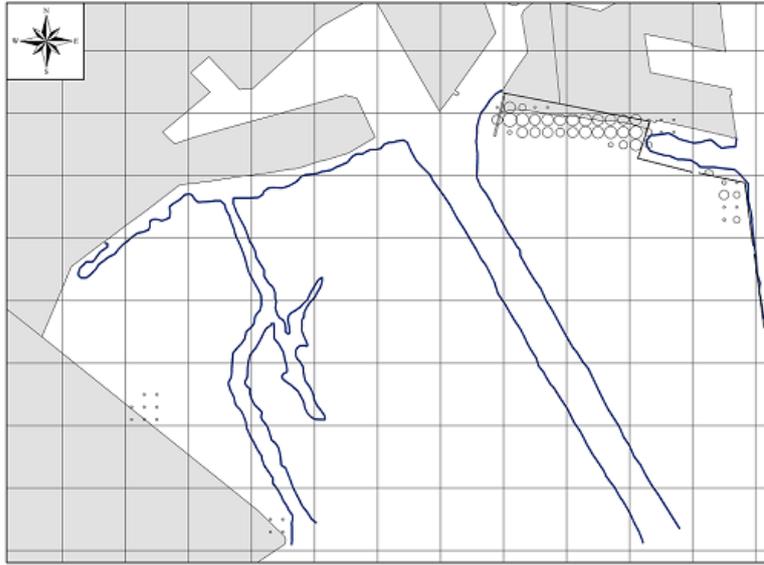
平成 19 年 8 月 28 日
ふなばし三番瀬海浜公園

一般生態 旅鳥として日本各地に渡来し、砂浜、干潟、水溜まり、大きい河川の砂泥地などで水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどを採餌する。干潟では干上がった泥の上から、足の長さと同じくらいの深さの水中を活発に動き回り、泥の中や水面をついばんで、ゴカイ、小型の甲殻類などを捕らえる。

確認時期 平成 8～9 年度と同様、主に 5 月と冬季に確認され、確認個体数は平成 8～9 年度、平成 14 年度に比べて減少傾向を示した。



分布状況 冬季の採餌場所を図 3-18 に示す。ハマシギの採餌は、潮位が低下し始めてから上げ始めまでの時間に主にみられ、潮位が高くなる時間には少なくなった。採餌場所は、ふなばし三番瀬海浜公園周辺と日の出前面であり、平成 8～9 年度と概ね同様であった。ただし、平成 8～9 年度にみられた養貝場、市川航路出口付近での採餌は、本年度はみられなかった。冬季の休息場所を図 3-19 に示す。休息個体は、潮位が高くなる時間に増加した。主な休息場所は、ふなばし三番瀬海浜公園の船橋航路寄りであり平成 8～9 年度と大きな変化はなかった。



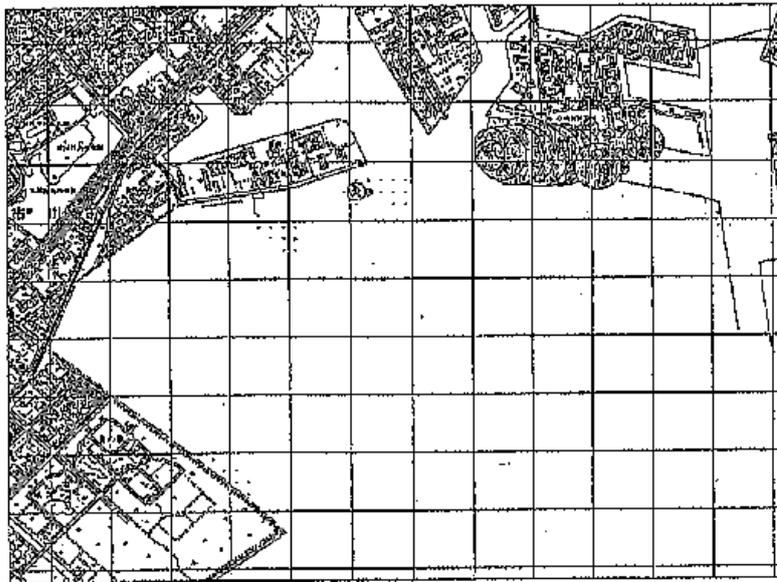
平成19年度冬季
 密度は次式より求めた円の
 大きさ(直径)で表現した。

○ 2
 ○ 1
 ○ 0.5

基準値1以上の場合 $x=10^{d-1}$
 上記以外の場合 $x=d$

x : 密度(個体数/100m²)
 d : 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合
 $d=0.1$ で表示



平成8～9年度冬季
 密度は次式より求めた円の大き
 き(直径)で表現した。

● 20
 ● 10
 ● 5

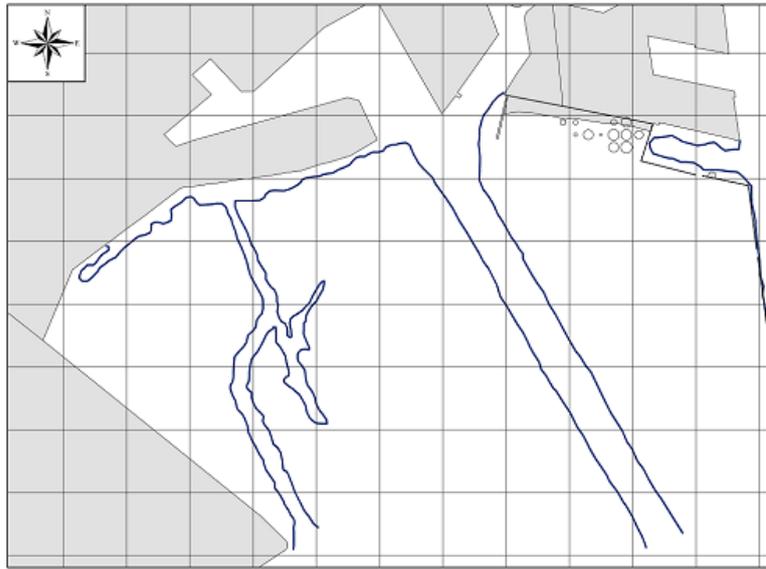
基準値10以上の場合 $x = 10^d$
 上記以外の場合 $x = 10d$

x : 密度 [個体数/100m²・対象期間]
 d : 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。
 なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-18 冬季におけるハマシギの密度分布(採餌場所)



平成19年度冬季

密度は次式より求めた円の
大きさ(直径)で表現した。



2



1

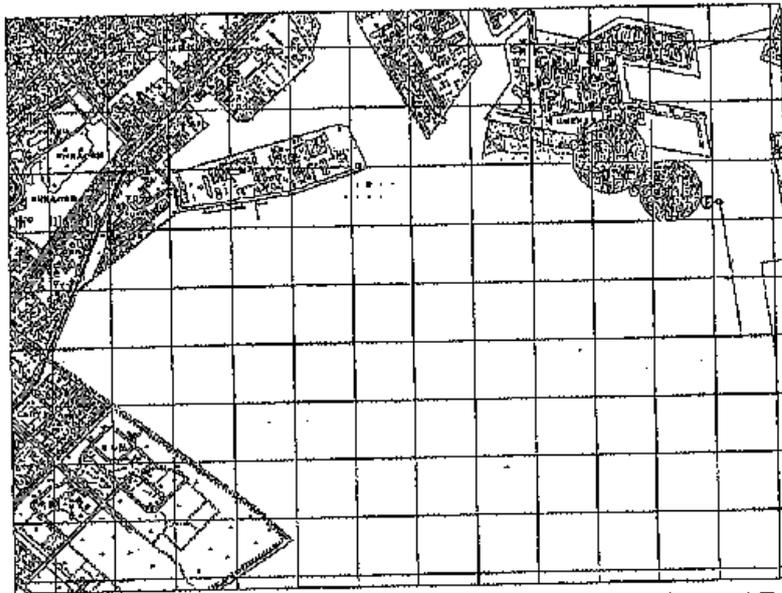


0.5

基準値1以上の場合 $x=10^{d-1}$
上記以外の場合 $x=d$

x : 密度(個体数/100m²)
 d : 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合
 $d=0.1$ で表示



平成8~9年度冬季

密度は次式より求めた円の大き
き(直径)で表現した。



20



10



5

基準値10以上の場合 $x = 10^d$
上記以外の場合 $x = 10d$

x : 密度 [個体数/100m²・対象期間]
 d : 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-19 冬季におけるハマシギの密度分布(休息場所)

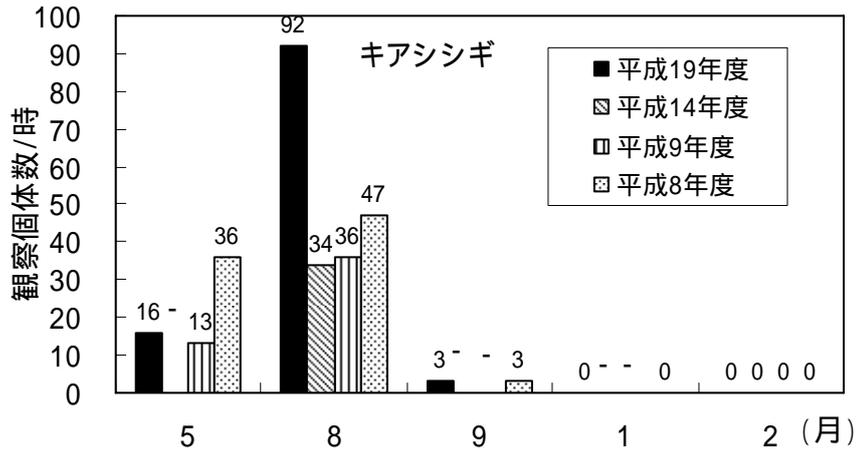
キアシシギ

平成 19 年 8 月 28 日
ふなばし三番瀬海浜公園

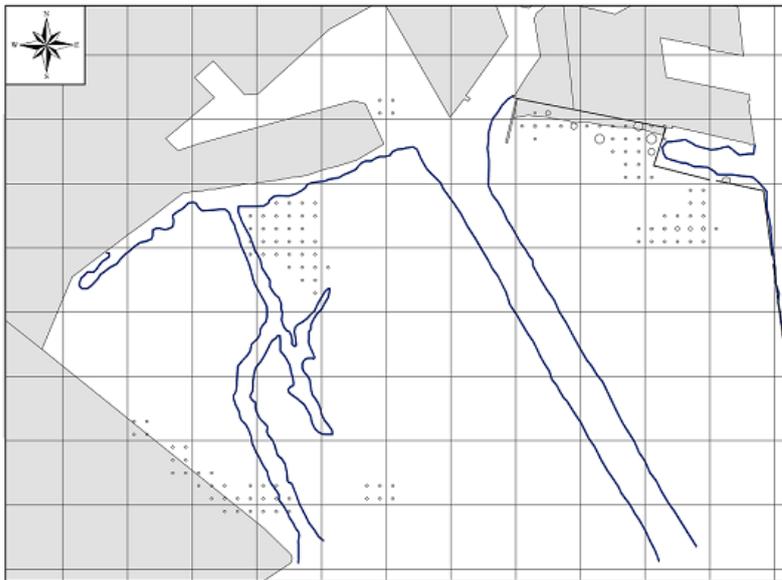


一般生態
旅鳥として日本各地に渡来し、砂浜、波打ち際、干潟、河川の砂泥地や砂礫地などで昆虫類等を採餌する。干潟などでは、泥の上や浅い水中を活発に動き回ってカニやゴカイを捕らえたり、水面に浮いている昆虫をついばんだりする。

確認時期
平成 8～9 年度と同様、主に、5 月、8 月に確認され、8 月の確認個体数は平成 8～9 年度、平成 14 年度より多かった。

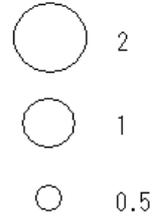


分布状況
夏季の採餌場所を図 3-20 に示す。
キアシシギの採餌は、潮位の下がり始める時間から上げ始めるまでの時間帯に確認された。主な採餌場所はふなばし三番瀬海浜公園周辺、養貝場、日の出の前面域であった。日の出前面域での採餌は平成 8～9 年度には確認がなく、採餌場所が拡大していた。一方、平成 8～9 年度には採餌が確認された江戸川放水路河口では、本年度は採餌がみられなかった。
夏季の休息場所を図 3-21 に示す。
休息は、潮位の高い時間に多くみられた。休息場所は養貝場にかかった橋脚周辺、船橋の防泥柵上、日の出前面の護岸付近であった。平成 8～9 年度の休息場所はふなばし三番瀬海浜公園及びその沖が中心であり、今年度とは異なる状況であった。



平成19年度夏季

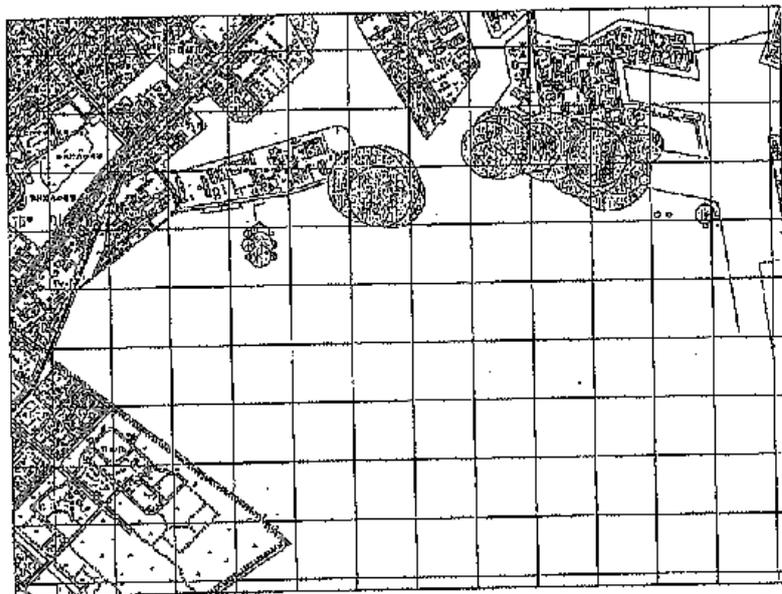
密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



基準値1以上の場合 $x=10^{d-1}$
上記以外の場合 $x=d$

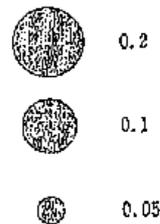
x: 密度(個体数/100m²)
d: 直径(cm)

$d \leq 0.1$ の場合
d=0.1で表示



平成8~9年度夏季

密度は次式より求めた円の大きさ(直径)で表現した。



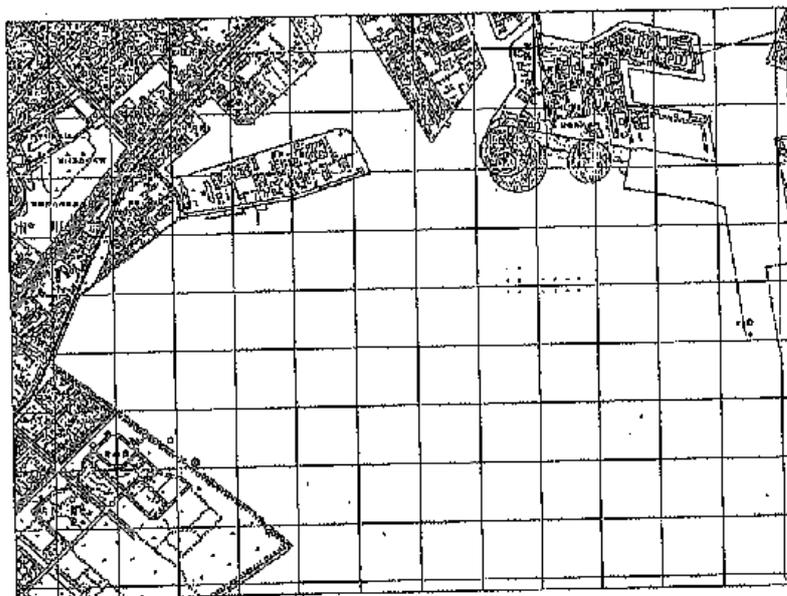
基準値0.1以上の場合 $x = 10^{d-2}$
上記以外の場合 $x = 0.1d$

x: 密度 [個体数/100m²・対象期間]
d: 直径 [cm]

格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図3-20 夏季におけるキアシシギの密度分布(採餌場所)



格子間隔を10mとして計算を行い、その結果を100m毎にまとめて表示。
なお、地図上の格子は500m間隔で表示。



図 3-21 夏季におけるキアシシギの密度分布(休息場所)